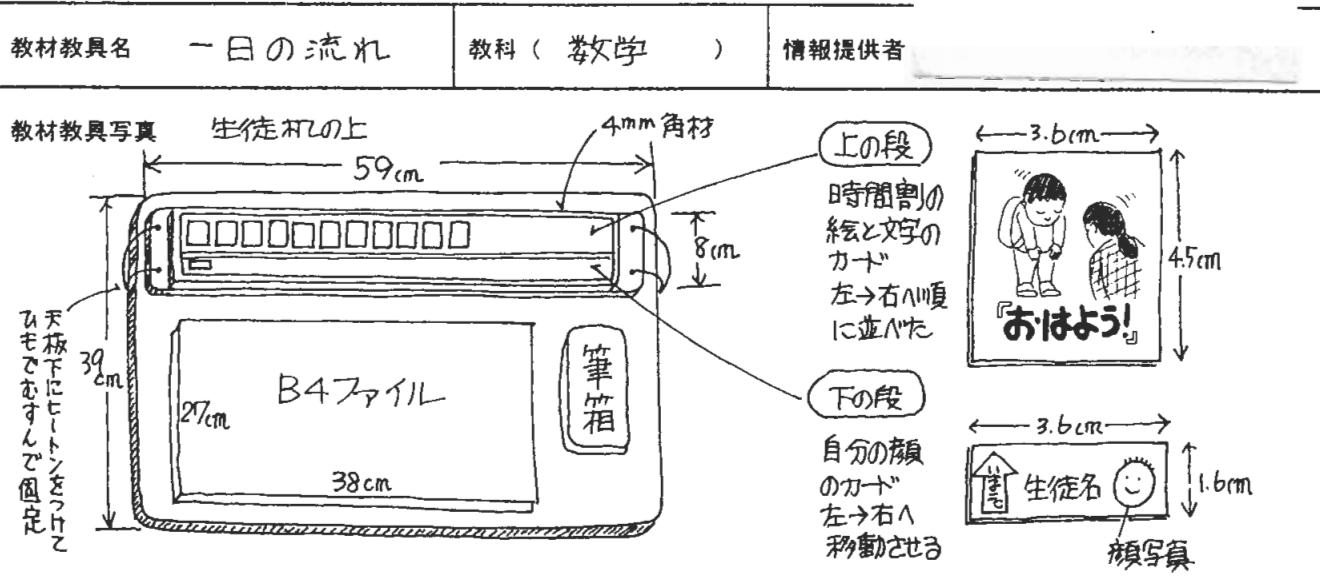


# 教材事例書式



教材教具の概略(ねらいと使い方) ※発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 主に自閉症の児童・生徒に一日の流れと今、自分のすることを知らせる
- 2 発達段階 一日の流れを絵や文字で理解し始めるところ
- 3 使い方

自閉症の児童・生徒に一日の流れを教えたいたときに、黒板やホワイトボードの時間割を常に意識させることは難しい場合がある。そこで机の上にホワイトボードを置くことにした。児童・生徒の机の大半は上図のように39×59cmである。この中に最も大きな学習プリントを置く場合はB4(またはB4ファイル)が考えられる。B4ファイルや筆箱を置くニンガエキスのように「一日の流れ」の大きさを考慮すると上図のように8×59cmの木製ホーダーが良いと思いついた。

上の段の時間割のかたは、終わるたびに取りさったり、さら返したら良い。また下の段の自分の顔のかたは自分がいる時間を明示したり、内容を知らせたりするものである。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

- 「一日の流れ」をプラスチックのホーダーにマジックテープで「はりなど」としていき場合のよう)に移動可能のものではないのに、児童・生徒がいくらい苦に扱ってもこなれまいようにした。
- 黒板やホワイトボードの時間割の絵形に合わせて、机上の絵形の「一日の流れ」にした方がより良かったかもしれない。
- 時間割の絵と文字のかたは30種類程度作ったが、生徒の実態に合わせて、全て並べたり、いくつかを選択して並べると良いと想う。
- 絵のかたは着色を考えたか、かえってごちゃごちゃして読み難いところもあり、白黒のままで良かった。
- 生徒が竟争して自ら、自分の絵のかたを動かして、おもしろい場面ができた。